



ベガルタ仙台

## 小さくても持続可能な町へ ベガルタハウスをつくろう 1/2

「少子高齢化」「関係人口の拡大」「空き家活用」。これらは日本全国、多くの自治体が抱える社会問題です。ベガルタ仙台は宮城県で一番小さな町、七ヶ宿町(しちかじゅくまち)でこの社会課題に取り組み始めました。元選手の菅井直樹、地元の方々、サポーターの皆様と共に、町内の築50年の空き家を「ベガルタハウス」と名付けて改修。町の賑わいと持続可能な町づくりの拠点として整備しました。ハウスの周りは荒れた土地、古びた牛舎等、改修ポイントがいっぱい! ハウスを中心に町との社会課題への取り組みがスタートしました。



活動場所 宮城県七ヶ宿町



協働者

企業、行政

協働者名

七ヶ宿町、七ヶ宿まちづくり株式会社



協働者の声

七ヶ宿まちづくり株式会社/渡部 秀文 氏



わが町の大きな課題と一緒に取り組んでくださっているベガルタ仙台さん。菅井さんを中心に空き家をDIYでリノベーションし、そこで一緒にイベントを行うことで、空き家利用方法の提案や関係人口の増加、さらには移住定住に繋がれば理想です。今後もイベントの企画や地域活動などに一緒に取り組んでいきたいと思います。



活動詳細情報

1

[公式サイト](#)


カテゴリー(SDGs)/取り組みテーマ





ベガルタ仙台

## 小さくても持続可能な町へ ベガルタハウスをつくろう 2/2

### Story

七ヶ宿町は宮城県の南西端に位置する人口1,285人の町です。自然豊かなとても美しい町ですが、県内では人口が最も少なく、また高齢化率が一番高い自治体です。クラブはこれまで町イベントへの参加等で交流を深めてきました。そのような中、昨年春に町より社会課題への協力依頼がありました。この課題の解決案の一つとして、クラブは七ヶ宿まちづくり会社が改修を行う予定の空き家を「ベガルタハウス」と名付け、このハウスを起点として課題に取り組むことを提案しました。ベガルタハウスにより見込む効果は、



ベガルタハウスの改修 → 空き家対策  
 ハウスでのイベント実施 → 関係人口拡大  
 結果、七ヶ宿町を訪れる人が増え、町の魅力を伝えることで移住定住を促進する → 少子高齢化対策  
 上記仮説を立て、ここにクラブの強みである「情報発信力」と「ネットワーク」を活用して取り組むことにしました。はじめに、七ヶ宿町、七ヶ宿まちづくり株式会社と「SDGs推進及び連携・協力に関する協定」を締結しました。空き家改修の主体は七ヶ宿まちづくり会社と元選手の菅井直樹。改修を進めるにあたり、架空の工務店を立ち上げ、話題性を持たせることで地元TV局2社が密着取材。多くの人にベガルタハウスを知ってもらうことに成功しました。そしてハウス完成後の活動資金はクラウドファンディングを実施し、多くのご支援をいただきました。7月から始まった作業は、サポーターが泊りがけで訪れ、汗と埃にまみれながら作業を進め、地元の方を含め多くの方々の協力により11月に完成し、小関町長様からは「SDGsの推進と地域の活性化を、ベガルタハウスを中心として図っていきたい」と大きな期待が寄せられました。



今後は地域の魅力を活かした話題性のある取組みを行い、持続可能な町づくりを支援していくほか、効果検証を行い、他の自治体にも提案をしていく予定です。